

事例研究報告

特別支援学校小学部の児童に
エコーイックで物の名前を教える

児童の実態

【対象児】

小学部の男子児童

【障がい名】

知的障がい 注意欠陥多動性障がい

【日常生活に関する実態】

- ・手遊びや歌など、音楽が好き
- ・教員の言葉を遅れて発したり、フラッシュバックした事を喋ることが多い
- ・すれ違う人を急に叩いたり、蹴ったりすることがある
- ・物を持ったら投げる
- ・簡単な言語指示(「落ちた」→拾う など)を理解することができる。

教員の考え

「言葉を増やしたい」

「自立的な行動を増やしたい」



アドバイザーからの助言

- ・物の名前を言う課題は，エコーを促す課題に移行しましょう。
- ・プロンプトを効果的に取り入れ，エコーできればトークンを取り入れましょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、「エコーイック課題」、「返事課題」として考えました。また、指導の中には、トークンを取り入れたり、模倣(拍手, バンザイ)や手と手を合わせてタッチするなども取り入れ、選択場面(自己選択)も設定するようにしました。

【指導目標】

- 提示された写真カードと、その名前を聞いてエコーすることができる(以後、「エコーイック課題」)。
- 呼名されると「はあい」と返事をするすることができる(以後、「返事課題」)。

指導方法: エコーイック

【指導方法】

◎指導場面

- 対面課題の時間(対面課題コーナー)

◎指導手続き

- 人や物, 場所などの写真カードを準備する
- 1セクションにつき8~15枚程度実施
- 写真カードを提示し, すぐに名称を言う。5秒待っても返事がない時はもう一度名前を呼ぶ。それでも返事がなく5秒たてば「バ...?」→「バ, ナ...?」と徐々にプロンプトを与える
- 提示した後に「せーの?」と言う(11月27日~)
- エコーできればチョコ1個を即時渡す(1月21日~)

記録方法と記録

- プロンプトなしでできた → ○
- プロンプトありでできた → Pt
- プロンプトしてもできなかった または プロンプトをフェイドアウトした後にプロンプトなしでできない → ×

記録方法(グラフ化)

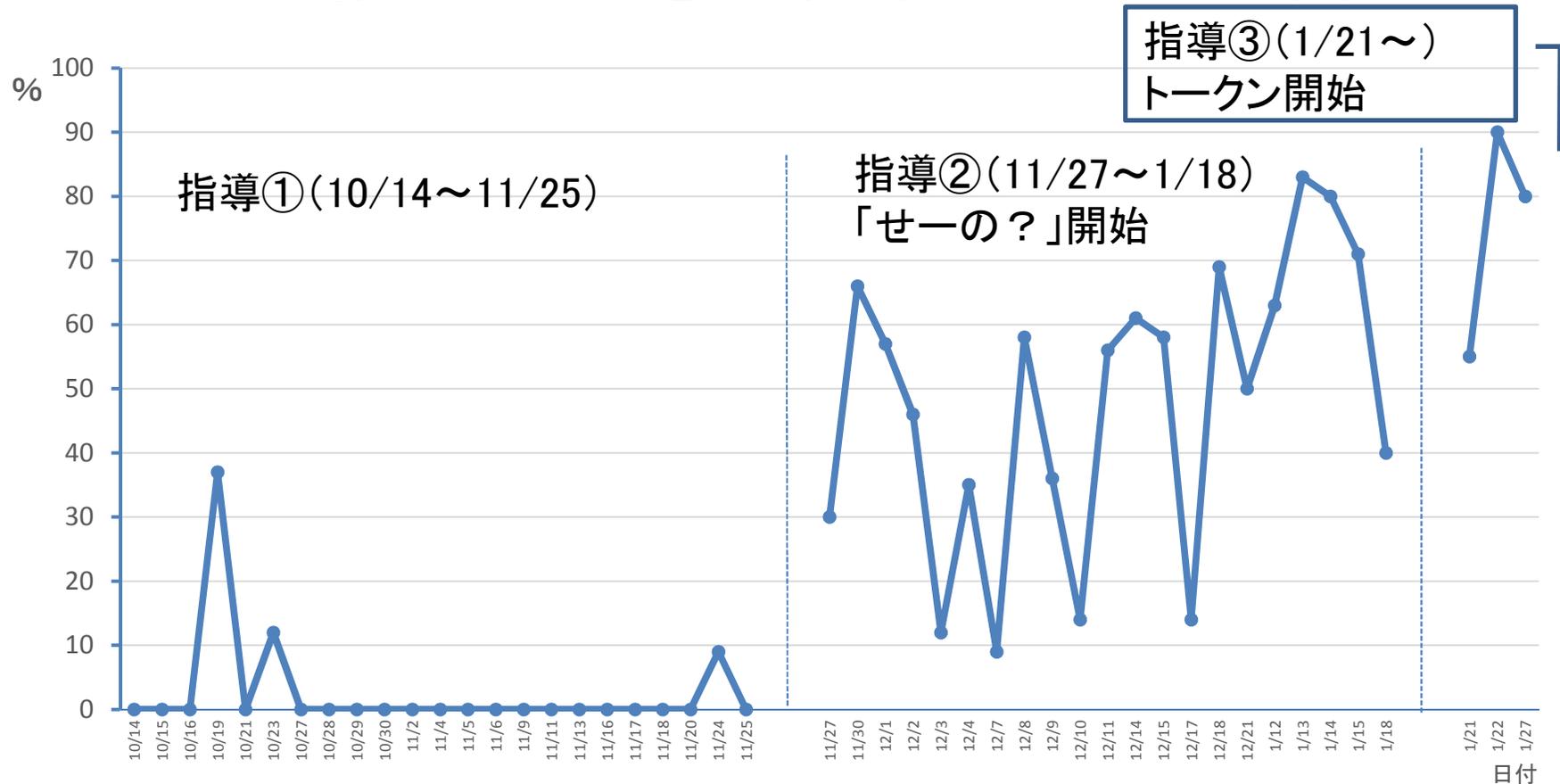
- できた → ○
- できなかった → Pt ・ ×

「(できた回数) ÷ (総実施回数) × 100」

= できた割合 (%)

指導(エコーイック)の成果

11月27日より「せーの？」と言い始めてからエコーできるようになってきました。日によってばらつきはあるが、徐々にエコーが言えるようになりしました。1月21日からトークンを始めてからは意欲的に取り組んでいます。



結果1: エコーイック課題の達成率

指導方法：返事課題

【指導方法】

◎指導場面

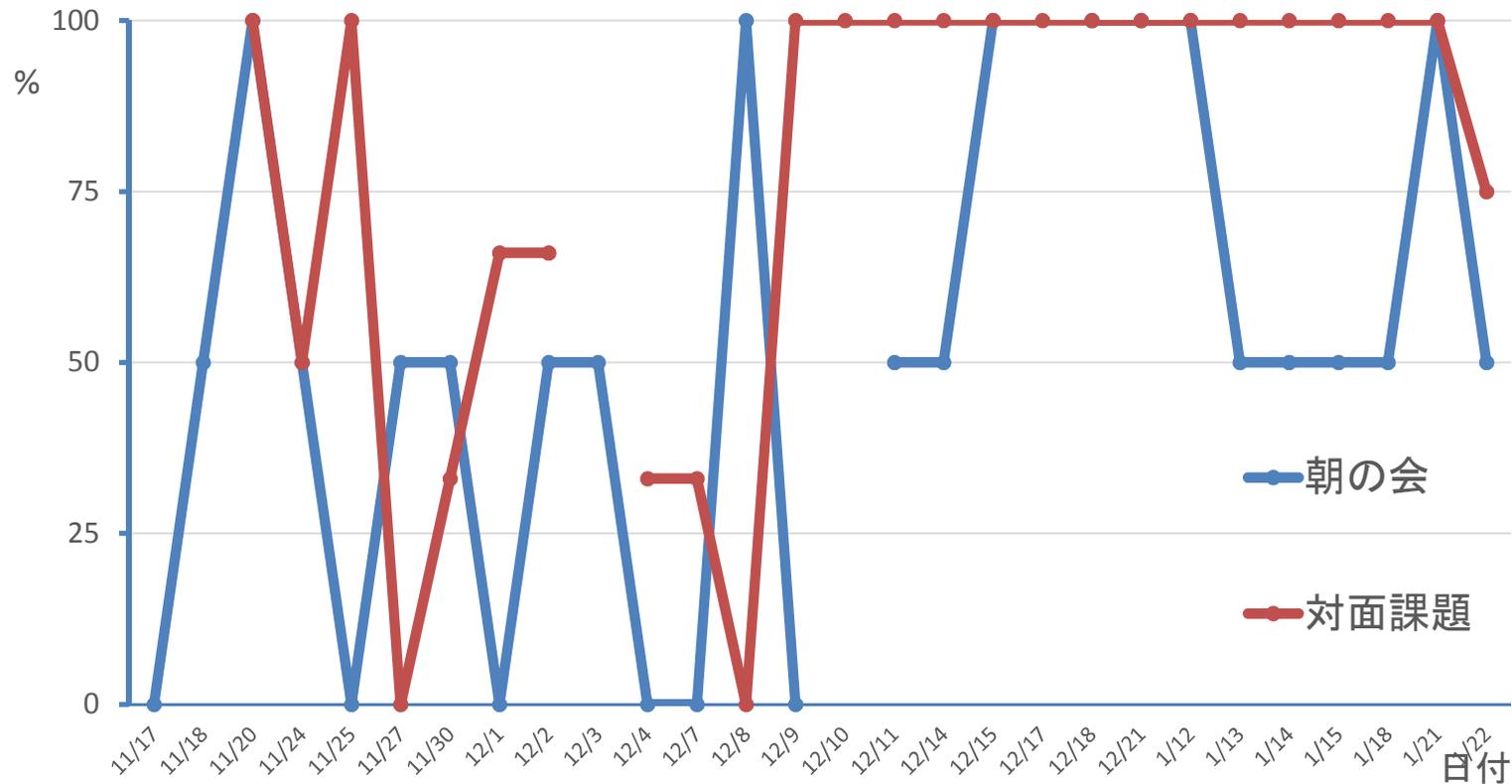
- 対面課題の時間（対面課題コーナー）
- 朝の会

◎指導手続き

- 朝の会では2回，対面課題では2～6回実施
- 名前を呼び5秒待っても返事がない時はもう一度名前を呼ぶ。それでも返事がなく5秒たてば「は...？」→「は，あ...？」と徐々にプロンプトを与える

指導(返事課題)の成果

12月9日より対面課題にて安定して、返事できるようになりました。対面課題で安定してできるようになったら、朝の会でも安定して返事できるようになってきています。



結果2: 返事課題の達成率

ここが成功のポイント



○「せーの？」は本児が何かしてもらいたい時に言うことがあったので、課題場面で言ってみたところエコーイックすることが増えたと考えられる。

○プロンプトのフェイドアウトとチョコ等のトークンが効果的であった。

○対面課題と朝の会で行ったことにより、相乗効果で指導の成果が見られた。